

生活園芸士教育課程ガイドライン

21. 4. 1 制 定

23. 4. 1 一部改正

本協会における生活園芸士の資格認定を受けようとする場合は、「生活園芸士資格認定に関する規程」をもとに教育課程を編成すること。授業内容については以下のガイドラインを参照のこと。

なお、読替科目は（ ）で示した。例示科目、読替科目以外の生活園芸教育関連科目を選択科目としてあてる場合は、本協会資格教育課程審査常任委員会の承認を得なければならない。

教育目標

園芸（ガーデニング）に関する一定の専門的知識と技能を有し、自らの家庭園芸づくりに留まらず、地域のガーデンづくりの啓蒙と普及にあたり、初学者への支援を通じて、ガーデンコミュニティやガーデンシティづくりに貢献できる中等程度のスペシャリストを目指す。

I. 必修科目

園芸論

園芸に用いる植物全般に関する知識の修得を目指す。また地域的特性による植物の理解と、果樹園芸に関する理解を深める。

（園芸概論、園芸学 など）

ガーデニング概論

園芸の基礎、園芸機材の種類と取扱い、育苗、寄せ植え、造園計画など園芸に関する基本的知識を修得する。また、園芸と人間の関係を中心に、欧米の「ガーデニング」の歴史と現状、コミュニティガーデンの歩みと社会的役割などに関する項目も含めて学ぶ。

（ガーデニング論、ガーデニング など）

ガーデニング実習Ⅰ

園芸の実際として、概論で学んだ各種機材の種類と取扱い、育苗、寄せ植えなど、造園に関する基本的技能を修得する。

（園芸実習Ⅰ、園芸基礎実習 など）

ガーデニング実習Ⅱ

コンテナガーデニングの実際として、各種コンテナガーデンの製作やハーブガーデン、キッチンガーデン、果樹栽培など園芸に関する応用的知識・技能を修得する。

（園芸実習Ⅰ、園芸基礎実習 など）

II. 選択科目

土壌・肥料論

土壌の成分的理解を基礎に、土壌の果たす生産機能や環境保全機能を学び、園芸植物に欠かさない土壌の窒素、炭素、リンなど有機肥料全般に関する知識と土壌との関わりを学ぶ。

（他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること）

園芸植物病論

園芸植物に見られる様々な病害虫に関する知識と、予防や駆除、各種薬品に関する取り扱いなど、植物の生態系や成長段階ごとの対応に関する知識を修得する。

（他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること）

家庭菜園

生活に密着した野菜の種、苗を育て、収穫までを学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

ビジネス園芸

育苗から生産までのプランニングを学ぶ。生産のコスト・市場の流通を考え購買力の高い植物選択を学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

小果樹園芸

収穫行為としての低木果樹栽培を前提に、その育て方から利用方法までを学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

コンテナガーデン

美しいコンテナの選択を学び、庭のアクセントとして調和を考察すると共に、移植・配置のデザインを学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

屋上緑化

平成 13 年に実施された「東京都自然保護条例」においても明らかなように、ヒートアイランド現象、大気浄化に不可欠な屋上緑化の技術を学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

エクステリア

庭の設計・デザインの他、生け垣、門扉、建物の平面や塀など、外観全般に関する意匠を学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

観賞植物素材論

園芸で活用する特殊な植物素材や手法（熱帯花木、山野草、盆栽、ハーブ、サボテン類、洋ランなど）の育て方と利用法を学ぶ。旧の熱帯花木、盆栽、ハーブ園芸を含む。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

食と園芸

食に関わる園芸植物（野菜・果樹）について、食育と関連づけて学ぶ。旧のハーブ料理、薬膳料理を含む。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

園芸装飾実習

園芸植物を用いた様々な装飾技術（フラワーアレンジや庭のデザイン）について実習をとおして修得する。旧の花押画を含む。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

種苗生産学

園芸植物の繁殖および育苗の理論と技術について学ぶ。旧の育苗実習を含む。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

栽培環境学

植物を栽培する上で必要な植物を取り巻く環境（光、温度、水など）や環境を制御する技術や理論を学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

生活と環境

生活を取り巻く環境の理解をとおして、緑化や街づくり、地球温暖化などを学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

室内園芸

室内という栽培環境を理解し、室内における園芸活動を学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

社会園芸

植物・園芸と人間との関わりについて学ぶ。

(他の名称を用いる場合は、シラバスによる審査を受けること)

その他大学が必要と判断して設置する科目については、生活園芸に有機的な関連を持つものとし、科目ごとのシラバスを提出すること。